

平成 27 年 10 月 25 日（日） 鶴山台北校区 タウンミーティング 参加者 62 名

【市長との意見交換】

市民： 各自治会長からタウンミーティングの意見をお聞いたところ、3 件ほど話があり、一番大きかったのがずっと叫ばれている北信太駅周辺の開発促進。今、定期バスも駅近くまでは乗り入れしているが、駅前までは来ていない。タクシーも入ってこない。特に北部コミュニティセンター、和泉霊園を利用する人はアクセスもなく困っている。

駅の乗降客数は信太山駅よりも北信太の方がずっと多いにもかかわらず、信太山はロータリーができていますが、北信太駅前にはロータリーができていない。バス停まで 5 分ほど歩いて行かなければならない。前から叫ばれているが、せめてバスを駅前まで引っ張ってくるということをやっていただければと。

当初住宅公団から話が進んでいたにもかかわらず、地域住民との話し合いがつかず現状にいたっている。我々は駅前の開発促進、庁舎のこともあるが、駅前が優先ではないかというのが 1 番の鶴北校区の意見。2 番目に、高齢化に伴う課題。他も同じと思うが、我々の地区では高齢化率が進んでいるので市の施策を聞かせていただきたい。

市長： 北信太駅前の状況は十分認識しており、本来朝 7 時から 9 時までは通行できない道路となっており危険である。北信太駅前線を UR の開発をした当時は、リージョンセンター前の道路を貝吹山の横を通って、駅前のすぐ横の市営駐輪場のところにロータリーを作るという計画があったが、それが凍結ということで進められていない。これについては長期的に取り組んでいきたい。土地はそんなに高くないが、物件補償をしなければならないので一番時間がかかる部分で、お金もかかるが、営業されているところもあるので。それを駅前まで持ってきたら、バスも通れる道路になる。

現在一般車両の通行は危険。ロータリーを作る場所は今の市営の駐輪場。ロータリーを作ったらどこに駐輪場をもっていくのかという問題があり、その辺検討をしている。和泉市も以前は府中駅前も北信太駅前も不法駐輪であふれていた。駐輪場をなくすと不法駐輪を増やすことになる。予算的に北信太駅前線を整備するのに 30 億円位かかる。用地に関しては路線価では買えず、物件補償の交渉もあって、時間がかかる。強制収容というわけにはいかない。道路の必要性は十分認識しているが、一番大変なのは財政であり、病院も建て、庁舎も建て直す、市営住宅の改修もしていかなければいけない。できるだけ早い時期に、駅前の駐輪場どうしていくか、これについては皆さんにも相談と情報提供をさせていただく。

市民： 鶴山台開発の時に北信太駅前開発についての公団からの補助金が市に相当額入っているが、それはどこへ行ったのか。その時の金額と今の金額の価値の差がある。

市長： 3 億円と聞いている。UR から地域整備に使うようにと。30 年前の話になるので当

時の市長のとき、お金をどう使ったかがない。3億円ではできないが、それに関わらず必要な地域整備はこれからもやっていく。

市民： 集会所の前から市立病院へ行くめぐーるバスが朝1便だけあるが、1時間位かかって病院へ行く。新病院が出来る時には1時間もかからず早く行けるように、1便だけでなく、病院へ早く行けるバスの便をお願いします。

市長： 病院へ行くバスは、今、市立病院と5つの駅を結んでいる。阪和線の3つの駅と、光明池と和泉中央の2つの駅と病院しか結んでいない。こまめに停留所をつくると、地域の診療所の経営を圧迫する。医師会には非常に和泉市の地域医療の貢献をしていただいていることから話し合いもあり、駅と病院だけということにしている。

コミバスのめぐーるも年間4千万位予算を取って、市内に何ルートかある。町会連合会にも聞きながら。中にはあまり利用客ないと路線があったので、必要などこに作ってくれという要望は多い。構造自体を変えていかないといけない。お金をどンドンつぎ込んだら路線も増やせるが、費用対効果として、空気運んで無駄なことをしていることになりかねないので、その辺も加味しながら他市の事例も研究して、なんとか少ない経費でより利用者の多い使い方ができないか、めぐーるに限らず路線バスに助成するとか検討している。高齢者の交通手段として。もうしばらくお時間いただきたい。

市民： 今後の高齢化に伴う案件について、鶴山台は昭和45年以降、新興住宅として開発されて、地区の住民も長い人で40~50年、高齢化が進み、高齢化率は約40%から50%になる。推測だが、2人に一人は高齢者。和泉市の同様の新興住宅地、青葉台、緑ヶ丘、光明台等も同じような地区ではないかと思うが、行政の今後のプランはどのようなものか。

市長： 地域を運営していくということは、我々の手には負えないこと。市全体としても高齢化率が上がっている。和泉市は大阪府の43市の中で一番高齢化率は低く、それでも22%で、毎年1%位上がっている。じわじわ高齢化率が上がっていて、特に何々台等、40年くらい前に街びらきをしたところは急速に高齢化が進んでおり、40%から50%ほど高くないと思うが、35%前後ではないかと思う。和泉市全体で高齢者世帯は5500件、7万世帯の中14件に1件、そのうちの高齢者の一人世帯4500件位。鶴山台などの何々台とかに集中する。この中で一番問題になるのは買い物難民、安否確認。それについては、各地域ではそれぞれモデルとなるような取り組みをしている。緑ヶ丘では、買い物については町会の世話役のリーダーがタクシーをチャーターして、3人くらいで乗り合わせて買物に行く。すると一人の運賃が3分の1ですむ。食べるものは生協等に来ていただいてそこで買うということもできる。熊本県人吉市では、NPO法人を立ち上げて、食材や必要な生活必需品を配達している。一度配達するといくらか負担いただいている。そういう事例を見ながら、地域の高齢化に対処していきたい。行政だけでできるのではなく、地域の皆様のお力をお借

りしながら取り組んでいきたい。すでにそういう事態になっているので、生活の交通手段がないとか、家から出ていけないとか、体が悪いとか、そういうことに対処していきたいと思う。

市民： 今市長の言ったような高齢化の施策も必要だと思うが、根本的に、青年の人口がどんどん減っている。高齢者の面倒を見る人が少なくなっていく。和泉市の子どもたちが和泉市で働けるような産業振興をやっていただき、そこで働き、自分の親の面倒が見れるという環境づくりをやっていただけたらと思う。

市長： まさにそうだと思う。今、国をあげて地方創生ということだが、一番肝心なことは雇用創生だと思う。仕事のあるところに集まるので、東京一極集中になっている。地域で仕事ができるのであれば、地域に住もうとなる。和泉市では、歴代の方々に取り組んでいただき、仕事をつくろうと、テクノステージとか、トリヴェール西部地区にも工業団地、研究施設もあり、西部地区にコストコ、ららぽーと等の大型商業施設、商工会議所もそちらへ行ったが、かなり多く 1 万人近く雇用が創出されている。

大阪府内の工場が奈良や和歌山に移転していく。府内では工場団地を拡張したいができなく、近隣住宅があり操業時間を規制されて 24 時間稼働できない。そんな中で移転するというのがある。和泉市では市街化調整区域の横山地区などの山手で規制の緩和をしていこうかという動きがでていて、特に 170 号線は非常に交通の便が良い。和泉市での雇用の創出が一番肝心だと認識しているので、それに向けて準備をしている。相手がいることなので、土地を確保したが、事業主がきてくれなかったらどうにもならない。

市民： 企業の誘致をお願いします。

市長： 歴代の関係者の努力でテクノステージは奇跡的な成功だった。当初は泉佐野、岸和田、和泉、3 か所で取り組み、泉佐野は破たんして、岸和田は凍結、和泉市だけが大成功をおさめた。

市民： 私の近くで孤独死があり、たまたま知り合いが電話して出なかったのが、町に連絡して、死んでいるのがわかった。地域のコミュニティの問題と思うが、この辺も市が考えてほしい。

市長： 民生委員に安否確認をお願いしている。敬老祝い品も配布していただいているのは安否確認の一環。もちろん高齢者に敬意を表するという意味もあるが、安否確認は行政だけではできないので、社会福祉協議会や民生委員などに協力して頂いて、給食配食サービスなど何らかの方法で、高齢者の方が地域の方々と接する機会を増やしていきたい。

完璧にはいかないが、先ほど言いましたが 4500 世帯ほど高齢者世帯があり、登録等してくださいといっても、個人情報をいやがる人もいる。高齢者と地域との関わりが大きな課題である。まだこれといった施策はないが、取り組みは決しておろそ

かにはしないのでご協力ください。